

H29年度 地域いこうJ !!ワーキング振り返り・評価シート

H30年3月1日作成

1 今年度の活動について

【今年度の方針】

家族が安心して地域に送り出せるための取り組み(普及啓発)の一つとしてパンフレット・Q&Aの作成を行う。

【今年度の取り組み内容】

開催回数	6回	開催月	5月、7月、9月、11月、12月、1月
------	----	-----	---------------------

○具体的活動内容

○パンフレット・Q&Aの内容検討と作成。

パンフレットの3つの目的を適宜確認しながら作成した。

目的① 家族の安心・了解のための普及啓発 → 家族や本人から聴き取りを実施し、Q&Aを作成。移行した本人や家族等の声を掲載。

目的② 本人への情報提供 → 地域での様々な生活を、入りやすいボリュームやレイアウト、写真やルビでわかりやすく紹介。

目的③ 支援者が地域移行に伴う本人・家族へ説明を行えるツール → 誰がどのようにパンフレットを活用するかという視点で、相談の流れやボリュームを検討。

○取り組みの結果及び成果 ※成果はモニタリングを実施した場合のみ

○パンフレットの完成と配付

・完成したパンフレットを市内5か所の障害者支援施設と各相談支援事業所に配付した。

2 今年度の振り返り及び評価について

【今年度、協議会活動を通じての振り返り(メンバーの感想・意見)】

メンバーが協議会での活動を通じて感じたことや気付き、今年度部会・ワーキングの取り組みに関すること、長岡市協議会の運営や体制に関する課題・意見等

- ・昨年度の課題抽出と対応策検討から継続して取り組み、完成版パンフレットの作成に至るまでの一連の流れに携わったことは、協議会の役割と活用のプロセスを学ぶことが出来、貴重な経験だった。
- ・作成のプロセスの中で保護者の声を確認できて良かった。
- ・パンフレット内容の検討経過において、パンフレットを作成する本来の目的を見失いそうになる場面があった。毎回ワーキング開始時に前回の内容を振り返ってから活動を行っていたが、あわせてワーキングの目的も適宜再確認し、ずれない議論を進めることが重要であると実感した。
- ・目的がしっかりしていたので、目的に沿った使い方もできる。ただ、最初にあった地域移行を進める為にはどうするか、というところで考えると、住む場所は？日中を過ごす場所は？生活上必要な支援は？等々次の課題が出てくるので、課題の解決や『地域移行』をどう捉えるか(施設も地域で暮らす場所のひとつ？等)といった確認も必要なのかもしれない。
- ・事務局の議論の進め方は、丁寧にワーキングメンバー全員で意見をすり合わせて集約することにこだわりを持って行っていたと思うので、少人数であっても結論を出すことは簡単ではなかった。しかし、その結果、しっかりと納得できる物が完成したのではないかと思う。やり切った感(達成感)がある。
- ・施設としてあまり取り組んでこなかった地域移行についてワーキングで検討を行うことで他施設の状況を伺い、情報共有することができた。
- ・自分が思いつかないアイデアを他の方から得ることができ自分も勉強の機会となり、楽しく参加させてもらった。
- ・障害別に取り組んだのは良かった。(障害に関する部分や課題と思う点で、他のメンバーと共感し易かった。)
- ・パンフレットは知的に限らず、他の障害にも使えるのではないか。
- ・いつまでに何をどうするか、計画立てて話が進んだので作業も進めやすかったと思う。
- ・相談支援事業所から他のグループやワーキングの状況等の情報を得る機会があったので、何もわからない状態ではなかったが、ワーキングだけの参加では部会としての取り組みへの認識は薄かったかもしれない。
- ・部会とワーキング両方に参加した結果、それぞれの役割が混乱してしまった。
- ・事業所内で自分の業務に直結する事柄でないと、自立支援協議会での活動等の話をしてもなかなか興味や関心を持ってもらいにくく、入所施設の様に短期入所や日中一時支援程度で地域での他の福祉サービスと関わる機会がないと、そこに課題があっても関心を持ちにくい。興味や関心を持ってもらうにはどうしたら良いのかと思う。

【協議会の機能について】

今年度の活動の中で、どのような協議会の機能があったかを確認する。※協議会の機能詳細については別紙を参考。

	機能の有無	確認した機能の内容 (どのような部分が機能であったか、なかった場合はなぜなかったか等)
情報機能	有・無	<ul style="list-style-type: none"> どのような地域生活があるか共有できた。施設以外の選択肢もあること、また地域生活＝GHだけではないこと。 他の施設の状況を知ることができた。 地域移行がすべて良いわけではなく、周囲の人の気持ちも知っていないといけない。
調整機能	有・無	<ul style="list-style-type: none"> パンフ作成の調整には、掲載に協力いただく人、関係機関の調整があった。 施設内だけでなく様々なところでパンフが活用できるよう今後調整が必要になる。 PDCAサイクルを明確にし、それに沿って活動できた。
開発機能	有・無	<ul style="list-style-type: none"> 素晴らしいパンフレットの作成ができた。 本人、家族、関係者への情報提供の機会を開発した。 地域生活の課題も見え、整理の必要性を感じる。
教育機能	有・無	<ul style="list-style-type: none"> パンフを作成する中で、改めて地域生活の流れを学んだ。 GHと関わりがなかった職員がパンフから知識をもち、利用者への情報提供に繋がった。 選択肢や情報が利用者には必要であることを改めて学んだ。 自分が思いつかないアイデアを他の方から得ることができた。 パンフ作成までの流れに携わり、協議会の役割と活用のプロセスを学んだ。 PDCAサイクルの有効性を感じた。
権利擁護機能	有・無	<ul style="list-style-type: none"> 自分の生活を決めていけるという「意思決定支援」がパンフで謳われており、ツールとして活用できるものである。 作成過程では、ルビ等利用者がわかりやすいよう配慮した。
評価機能	有・無	<ul style="list-style-type: none"> 各入所施設の状況確認や評価ができた。 入所施設における「地域移行」というデリケートなテーマを確認し進めることができた。 パンフの作成が、地域移行にむけての第一歩となった。

3 来年度の取り組みについて

来年度の継続	継続	終了
継続・終了の理由	モニタリング期間を一年とし、30年度はパンフレットを活用し、31年度にモニタリングを実施するため。	

※部会を一旦終了とする場合については、運営会議にて協議の判断材料とできるようその理由を明確に記載すること。

今年度の取り組みに対するモニタリングの実施	有	無	モニタリング実施時期	H31年 6月
-----------------------	---	---	------------	---------

※ワーキングのみ記載

【振り返り・評価内容を受けて、来年度改善を行うこと】

※来年度継続の場合

会議内容や方法に取り入れることなど、具体的に記載する。

【来年度の方向性・具体的取り組み内容や引継ぎ事項等】

※来年度継続の場合